

2015 年度 学校関係者評価 報告書

学校法人滋慶学園
東京ベルエポック美容専門学校

学校法人 滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校

第 1 回学校関係者評価委員会議報告書

報告書作成者:白鳥 恵美子

1. 開催日時 平成 27 年 6 月 18 日(金) 15:30～17:00
2. 開催場所 滋慶学園東京本部会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員

平成 27 年度学校関係者評価委員会 委員

陟山 智雅 (株式会社テーブルカンパニー) 【卒業生代表】

谷 優子 【保護者代表】

森 幸男 (元葛西消防団 団長) 【近隣関係者代表】

森 久人 (千葉商科大学付属高等学校 学校長) 【高校関係者】

山元 健次郎 (株式会社 髪師 代表取締役) 【業界代表】

学校側参加者

浮舟 邦彦 (滋慶学園 理事長)

浮舟 洋子 (東京ベルエポック美容専門学校 学校長)

片山 裕介 (東京ベルエポック美容専門学校 副学校長)

山口 敦 (東京ベルエポック美容専門学校 事務局次長)

仁村 将大 (東京ベルエポック美容専門学校 学科長)

白鳥 恵美子 (東京ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター長)

4. 会議の概要

- (1) 各委員ご紹介
- (2) 委嘱状交付 全委員授与
- (3) 平成 26 年度自己点検・自己評価結果報告
及び平成 27 年度重点目標の説明
- (4) 質疑応答及び審議

(自己点検評価・重点目標説明への意見)

意見 1 学内コンテストやアシスタントプログラム、学内サロンなどでプロに近い環境で色々なことを学べることはとても良いし、刺激にもなり、就職後も強みになると思う。ただ、学生のうちに沢山のことを経験し過ぎで、そこで満足感を得られてしまったり、業界の現実もしっかり見ずに就職していくと、ギャップの多さに耐えられなくなってしまうのではないかな。

- 意見 2 美容業界の現場での実態がますます二極化が進み、専門性と便利性に分かれ、淘汰される時代に入る。当然、夢ある美容師を目指すため、専門知識を学ぶことが絶対不可欠である。(毛髪・頭皮・薬剤等の理論)お客様と向き合う対象年齢は、40代～60代が圧倒的に多く、その悩みが毛髪・頭皮のケアと薬剤による髪の痛みが多い。基礎知識の授業が必要になる。
- 意見 3 学校と、業界との間でズレが生じないように、すりあわせが必要。現場に出たときは若い世代のお客様ばかりではない、という意識改革をして、プロとしての意識の持ち方を伝え、夢を持てるようにしたい。そうすれば、業界に出ても長続きするのではないか。
- 意見 4 これまで職場で見てきた後輩は、どちらかというと精神面が弱いケースが多い。現実が分かっているのではないのか。当たり前のことを言うだけでへこんで、傷ついてしまうこともある。学校で、メンタル面を強くできるといい。技術面は、現場に出てからも練習すればするだけ上達する。
- 意見 5 「自分は出来る」と思って現場に入ってきてしまうと、現実とかけ離れてしまう。就職をして現場に出たら「まずは掃除から始まる」という意識が必要。最初から何でも出来ると思っている場合が多いので、そこのバランスを取ることが必要。
- 意見 6 学生のサロンワークで保護者を招待する際など、学校の説明に加えて、保護者同士で話が出来る場などを作ると、保護者同士の連携も取れて良いのではないのか。一人暮らし学生の保護者の方は心配をしているので、安心できるのではないのか。
- 意見 7 卒業後1年以内の離職率について、大学だとなかなか卒業後の状況が分からないが、生涯就職支援体制で接点を切らないように工夫していて、卒業後のことも状況をしっかりつかんでいることに感心した。
- 意見 8 現場に出てくる卒業生について、ここ数年の傾向は、想像していた現場と乖離がある場合が多い。学校の運営の中で、学生たちがやりたい仕事に近いコンテスト・若い人へのヘアメイクなど華やかな部分でモチベーションを上げていくが、外に出たときのギャップもどこかで伝えないといけない。
- 意見 9 一昔前は、コツコツ練習をして覚悟をもっていた学生が多かったが、今は「出来る」と思ってきている学生が多い。学校設備や情報の充実により、学生時代の教育の質・レベルが上がっている。現場では通用しないので、現場に出て一から学ぶという意識が必要。

意見 10 幅広く視野を持てば、アジア圏など日本の技術は求められているので、外国に出て行くことも考えられる。外に出て行く道をサポートしていくことも必要なのではないか。

5. 次回開催予定日

平成 28 年 6 月 予定

6. 評価結果およびご意見に基づく改善方策

学校関係者からの意見を受けて、授業シラバスを修正・改善する。

1. 理想と業界に出たときの現実のギャップを埋める
2. 業界調査や動向を学ぶ
3. アジアへ目を向ける
4. 若い世代だけでなく、幅広い年齢層を対象とした施術を意識できるようになる
5. メンタル面強化のための講座を実施

該当科目：「就職講座」「美容運営管理」(学生サロン実習)「美容総合技術」